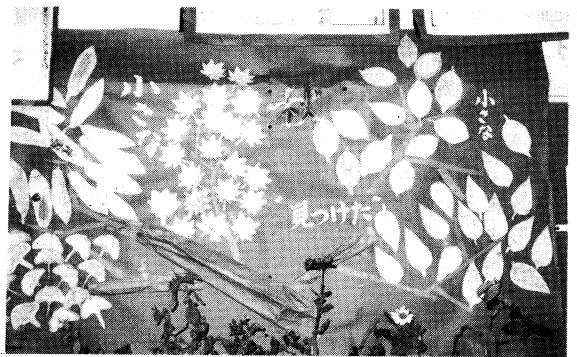


資料1 年間の月別計画

※(1)と(3)は、継続観察である。

月	活動内容	手立て
4	○ふれ合いの丘での自分の植物探し (パンフレットづくり)	(1)
	○アブラナの観察 (パンフレットづくり)	(3)
	○春、見つけた! 気づきカード	(3)
5	○オタマジャクシ観察 (パンフレットづくり)	(3)
	○ヘチマの種まき	(3)
6	○春の新聞づくり (5月から)	(2)
	○ヘチマの観察 (パンフレットづくり)	(3)
7	○夏、見つけた! 気づきカード	(4)
8・9	○夏の新聞づくり	(2)
	○秋、見つけた! 気づきカード	(4)
10・11	○秋の新聞づくり	(2)
	○押し花づくり	(5)
	○ビデオ撮影	(5)
	○植物採集 (びんに)	(5)
	○他県との手紙の交換	(5)
	○スライドづくり	(5)
12	○冬、見つけた! 気づきカード	(3)
1・2	○冬の新聞づくり	(2)
	○きせつごよみのまとめ	(3)
3	○まとめの新聞づくり	(2)
	○個人でのまとめの新聞づくり	(2)

- ループの中で、教え合える。
- 教室に掲示しておくため、四季の変化を追ったり、比較したりできる。
- ペーパーテストでは評価できないの情意の評価ができる。
- (1) グループ新聞づくりでの成長
- 新聞づくりの楽しさを知る。
- 春からの変化を意識できた。
- ◆ 自分の担当の記事が、詳しく書けるようになった。
- ◆ 全体の仕上がりが、見栄えのするものになった。
- ◆ 季節の特徴が、強調されて一目で、秋が感じられた。
- ◆ 読む人に、驚きや感動を与えられる内容の工夫が見られた。
- ◆ 秋の季節の特徴が、強調されて一目で、秋が感じられた。
- ◆ 静の世界へ移った特徴が、あらゆる面から表現されていた。
- ◆ 冬だけに見られる現象を他と比較したり、原因を考えたりしながら書かれていた。
- ◆ 以上のように、発達段階に応じて、だんだんよい新聞づくりができるにしたがって、内容に深まりが出てきた。同時に、学習の上からも、内容が豊富になっていった。
- (2) 個人新聞づくり
- ◆ 四季を学習後(個人で)まとめをさせていった。
- ◆ 個性の表われた新聞ができた。
- ◆ 実物や写真、絵と文字のバランスを考え、読む人の興味を引く工夫がされた。



自然の変化に気づいたら、自分のカードを貼る

- ◆ グループで学習した内容が、個人にどう生かされていくかが読み取れた。
- (一) 自分の植物づくり
- 自然の中に自分の観察したい植物を決め、名札をつけ、自然に触れる機会をつくっていった。
- ◆ 名札が付けられたことにより、友だちの植物にも目が向けられ、毎日の観察が、待ち遠しいようになった。
- ◆ 植物の毎日の変化に敏感になり、抵抗なく観察に飛び出した。
- (二) 季節ごよみづくり
- 個人ごとには、観察記録をまとめたパンフレットを作らせ、教室内にも、一年間のこよみを掲示しておいた。

- (四) ① 四季の変化(流れ)が、常に一目でわかり、活用も幅広い。
- 温度と植物(動物)との関連づけが、たやすい。
- 一年間の温度変化が、見通せるので、季節の特徴がわかる。
- (四) 気づきカードの利用
- ◆ 自分のカードを貼ってもらいたくて、競争し合って、自然探検に出かけた。
- ◆ 自然界の微妙な変化にも敏感になつていくため、ひとりでは、五感がみがかれていった。
- ◆ 地域の自然に親しみをもち、植物の名前を自分から調べるようになった。
- (五) その他(略)
- 六、研究の成果と課題
- (一) 成果
- ① 手立ての中の、新聞づくりでは、春・夏・秋・冬と進むにつれ、はつきりした子どもたちの成長を見ることができた。
- ② 一年間、じっくり観察し、身近な自然に触れていった自分の植物づくりは、自然界のしくみや動物への強い関心につながった。
- ③ 気づきカードでは、自然をよく見つめる目が育ち、四季の変化を敏感に感じることができるようになつてきた。
- ④ 教室に掲示した季節ごよみでは、
- (特徴)